

20世紀初頭アメリカにおける家庭生活

Domestic Life in the United States During the Early 20th Century

堀 麻衣子

(Maiko HORI)

I 序論

現代を生きる我々の生活は、社会生活と家庭生活のふたつに大きく分類することができる。社会生活は家庭の外、労働する場や学校などの社会、第三者と関わる場で営むものであり、家庭生活はその名の通り、家庭における家族内での生活のことである。このふたつが重なり合うことによって「生活」が成立するといえる。特に、家庭生活は人間関係の基本となる家族同士で構成する生活であり、基本的価値観の構築といった成長過程における重要な役割を果たしているだろう。すなわち、家庭生活を明らかにすることは、そこで成長する人間の価値観を紐解く手がかりになるといえる。また、先に述べたとおり、家庭生活と社会生活は密接に関係しており、社会生活が飛躍的に発展した時代は、家庭生活にも大きな影響が出ていると考えることができる。逆に述べると、豊かな家庭生活を送ることが社会生活にも少なからず影響を与えるともいえるだろう。

そこで、本研究では現代生活の基盤を作った20世紀初頭、大量生産・大量消費で輝かしい時代であったアメリカをテーマとし、発展していく社会の中で生きる当時の人々の家庭生活を明らかにすることを目的とする。資料には、1900年から1910年までの10年間に発行された「レディース・ホーム・ジャーナル」を用い、当時の中流階級のアメリカ家庭生活全般に関する記事を調査することとする。

II 時代背景

アメリカにとって、19世紀末から20世紀初頭にかけては最も大きく変貌を遂げた時期といえるだろう。1869年に大陸横断鉄道が開通し、1900年までにほぼ全土にわたり鉄道網が整備された。1910年には世界の鉄道軌道の三分の一を占めたともいわれている。また、鉄道の発達には市場の流通を促し、商業が大きく発展する起因のひとつになった。これまで各地でしか手に入れることのできなかった材料や商品が、鉄道・郵便制度の整備によって遠距離で手に入れることができるようになったのである。こうした市場の統一はこれまでにない巨大な市場を生み出すこととなった。それにともない、商業都市シカゴのように都市化が進み、ビジネス・商業地区に隣接するように富裕層や中流階級の者たちが都市に住まうようになった¹⁾。これは大きな変化のひとつといえるだろう。必然的に、そういった中流階級家庭の子どもたちは生まれながらに都市生活者となり、それまでの農村に住む子どもたちの生活とは大きな隔たりが生まれ

た。かつての農村の子どもたちはいわば「小さな労働者」として、農場や商店といった家業の手伝いをするのが必須であり、また子どもたちもそれを当然のこととして認識していた。しかし、20世紀初頭の都市生活者である子どもたちは、既に機械化の進んだ大量生産の社会の中で生活しており、かつてのような「小さな労働者」とは異質の存在へと変化した。玩具や書籍などもそれまでの子どもたちに比べ圧倒的に増え、現代の我々が認識する「子ども」の存在に近づいたといえる。また、比較的金銭に余裕のある中流階級の誕生は、学校教育への関心をよせることとなる。都市部に住む中流階級の父親は、農村部で農業を営む父親のように、子どもたちの目に触れるところで労働を行わない。家の外で工場や会社、商店に雇用され、事務や機械操作などの仕事に従事することとなり、これまでのように子どもたちが共に労働をすることがなくなった。必然的に、「大人」と「子ども」の違いが明確化されていたといえるだろう。このち次第に学校教育は義務化され、子どもたちの生活の場は「家庭」と「学校」の二つが主軸となった。この変化が、現代の我々の生活における子どもたちの日常の原型であると考えることができる。子どもたちが通学する学校の中には、少女たちに向けたカリキュラムとして食事計画の立案や調理、裁縫などの生活技術の習得が組み込まれている学校もあった。同様に、少年たちに向けて木工や籐椅子作りといったカリキュラムが組み込まれていることもあったという。こうして、子どもたちの技術習得の場は家庭内から学校という公の場へと移行していった。

では、大きく変化を遂げていった20世紀初頭のアメリカ家庭の姿はどのようなものであったのだろうか。この時代に広く普及しつつあったアメリカ婦人雑誌に掲載された記事を調査・分析することにより、当時のアメリカ家庭の姿を明らかにしていく。

Ⅲ 雑誌「レディース・ホーム・ジャーナル」

「レディース・ホーム・ジャーナル」は1883年にサイラス・カーティスによって創刊され現在でも発行されている、アメリカにおいて「セブンシスターズ」と評される代表的な婦人雑誌である。「セブンシスターズ」とは、「レディース・ホーム・ジャーナル」（1883年創刊）、「グッド・ハウスキーピング」（1885年創刊）、「マッコールズ」（1897年創刊）、「レッドブック」（1903年創刊）、「ザ・ベター・ホームズ・アンド・ガーデンズ」（1922年創刊）、「ファミリー・サークル」（1932年創刊）、「ウーマンズ・デイ」（1937年創刊）のことを指す²⁾。これらはいわゆる良妻賢母型の雑誌で、いずれも女性たちから広く支持を受け、発行部数を伸ばしていた婦人雑誌の草分けである。「レディース・ホーム・ジャーナル」は娯楽・教養・実用をテーマとしており、主な読者層は中産階級の女性とされている。特に、子どもを持つ女性、あるいは将来子どもを持つであろう若い女性が読者であったと考えられる。

桑名は、「レディース・ホーム・ジャーナル」について、「女性に家事と家計について説き、住宅の機能性と安全性を考慮した設計プランや2000ドル以下で建てられるグッドデザインの家についての記事が大きく評価された」³⁾こと、「質の悪い売薬の宣伝に反対するキャンペーンや広告の真実性の追究、母親の健康管理のための改革運動などを実施したことによって成功

し、現代的なアドバイスのコラムを作りだした⁴⁾ことや「若い女性からの恋愛・結婚・子育て等に関する相談ページを作った⁵⁾ことなどを評価している。

紙面構成は社会的な記事から住まいや食事、裁縫など家庭に関する記事、読み物まで幅広く、女性に向けた総合雑誌であったことが推測される。また、連載記事も数多くあり、毎月愛読する女性が多かったといえるだろう。実際に当時の女性たちが好んだとされる台所や、テーブルアレンジメントなどは写真を多く掲載し、視覚にも鮮やかであり、家庭をあずかる主婦たちに向けて発信されていたことは想像に難くない。中でも裁縫を含む服装に関する記事は多く、読者の女性たちの衣服に関する高い関心がうかがえる。また、子どもの衣服に関してもイラストつきの記事が数多く掲載されていることが確認できる。

このように、この当時発行されていた雑誌は、人々にとってひとつの情報源として大きな役割を果たしていたといえるだろう。当時の中流階級女性たちは、広く普及しつつあったこれらの女性誌を参考にして、家事・育児あるいは生活全般の参考にしていたとすれば、女性誌は彼女たちが営む家庭生活を探るうえで有用な資料であるといえる。

IV 誌面にみるアメリカ家庭

1. 学校への関心

「レディース・ホーム・ジャーナル」の誌面においては、当時の家庭の様子をうかがわせる記事が多く掲載されている。なかでも散見されるのがパブリックスクールの様子についてなど、子どもの教育に関するものである。キャンパス内の様子とあわせて、子どもたちの写真が見開きで大きく掲載された号もあり、読者たちにとって強い関心の対象であったことがうかがえる。1900年1月号に掲載されたパブリックスクールの写真のなかには教室で裁縫をする少女たちの姿もあり、学校における子どもたちの様子を推測することができる⁶⁾。また、1901年10月号には寄宿学校における季節ごとの食事メニューが掲載され⁷⁾、学校生活そのものに関心が寄せられていたといえるだろう(図1)。1902年8月号には「寄宿学校の少女」と題された記事が掲載されている(図2)。記事は「夏休みの間、



図1

秋に寄宿学校へ進学予定の少女たちの母親は服装の予習をしなければならない』⁸⁾ という一文から始まり、アンダーウェア、ペチコート、フランネルのラッパー、スクールガウン、アクセサリなど身につけるもの全般にわたり細かくアドバイスをを行ったものである。娘を学校に通わせるにあたり、それにふさわしい服装を気にかける母の姿を垣間見ることができる。同号には「初めての学校用ドレス」⁹⁾としてイラストつきの記事も掲載され(図3)、新年度に向けて服装は大きな課題のひとつであったことが推測される。同様の記事は1900年代後半にもみることが



図2

できる。1907年8月号では、「カレッジと寄宿学校に通う少女たちの衣服」と題して、イラストと細かな描写がなされた記事が掲載された(図4)。この記事ではテーラードコート、スーツスカート、アフターヌードレス、シャツウエストなどバックスタイルも含めて7人のイラスト



図3



図4

トが掲載されており、そのすべてのデザインの型紙が15セントで販売されている¹⁰⁾。シャツウエストやコートの場合はバストサイズ、スカートの場合はウエストサイズとヒップサイズを明記して注文するように促す一文が確認でき、これらは当時普及していた郵便配達制度を利用した通信販売の一種であるといえるだろう。また、同号には「少年少女のための学校用衣服」としてより年齢の若い子どもたちのための衣服が掲載されている(図5)。こちらも先程の記事と同様のスタイルをとっており、数名の子どもたちの衣服を紹介したうえで、10セントあるいは15セントで型紙を販売している。母親たちが、こうした紹介記事を参考にして型紙を購入し、家庭で仕立てるという図式がある程度一般化していたと考えることができるだろう。

このように、子どもたちを通学させる学校への関心をうかがわせる記事は多くみられるが、中でも異彩を放っているのは1910年9月号に掲載された、「カレッジへ通わせるべきではない少女」と題した記事である。若干刺激が強いようにも見えるこのタイトルであるが、記事を書いたLaura. E. Lockwoodは冒頭で「6人の新入生になぜカレッジへ進学したのかと質問した」と記し、「先生からカレッジへは行くものであると言われたから」「母親自身がカレッジへ進学する機会がなかったため、私を進学させることを決めた」などの回答を得たと続けている。これを受けて、「多くの少女たちが不十分な、つまらない理由でカレッジへ進学していることが明確に示された」と嘆いているようにも見受けられる文章をつづった¹¹⁾。これらの文章から、当時進学する少女たちの中には、彼女たち自身に明確な意思がなく、周囲の状況に流される形で進学するという状況が存在していたことがわかる。読者の中に家庭の主婦が多かったことを想像すると、彼女たちの教育観に深く切り込んだ記事であったといえるだろう。

2. 家庭の中の姿

レディース・ホーム・ジャーナルでは、家庭の様子をあらわした数多くの記事が掲載されている。その中のひとつがキッチンや食事の写真である。これは調査を開始した1900年当初から確認できる。1900年1月号には、「女性たちはどのようにキッチンを整えているか」と題し

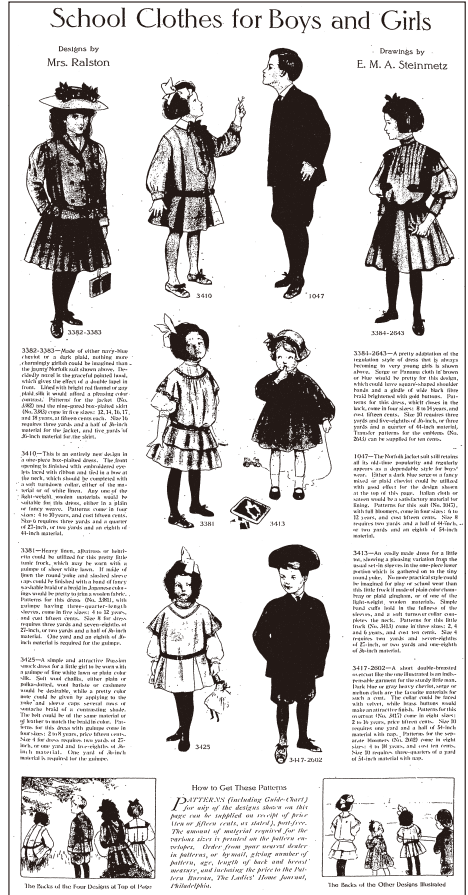


図5

て、写真を掲載している(図6)。いずれも実在の家庭のキッチンを紹介していると思われ、州名や名前も掲載されている。また、この記事は各キッチンに順位をつけて紹介しており、「シンクとドレッサーの後方の磁器のタイル、上品にカーテンで覆われた窓、リノリウム(床仕上げ材の一種)で保護された床、ソースパンの蓋を置くラック、そして全体的にきれいに整頓された状態で保たれている」と細かく受賞理由を説明しており¹²⁾、家庭の主婦の様子をうかがうことができる。このほか、食事についての記事も毎号のように掲載されており興味深い。1900年2月号には「真冬のおいしい料理」と題し10種の料理を写真で紹介している(図7)。焼き鱈、チキンカツレツなど簡単な説明が添えられ¹³⁾、現代の女性誌に掲載されているような料理紹介記事と比べても遜色はない。料理については、1901年11月号に「ローラー夫人のクッキングスクール」というより具体的な料理指南記事がみられる(図8)。1ページをそのまま使った大きな記事で、「食材を選ぶ」「牛乳と卵は完ぺきな食品である」¹⁴⁾といったサブタイトルがついた段落に分かれており、いずれもその重要性を説くものであった。完璧な食事を目指し事細かに書かれたその様子から、読者はこういった指南記事も栄養面を含めた調理の参考にしていただ



図6



図7

Mrs. Rorer's Cooking School

ALL the changes brought about during the nineteenth century have had a greater influence for good than the progress made in scientific cooking. Under the leading given above I shall explain in my lessons from month to month the sources, chemistry and best methods of cooking all foods in common use and also demonstrate their value in food building. If the instructions given are not always perfectly clear or seem antagonistic to former methods don't hesitate to write for an explanation. A proper understanding of the conditions under which we live will, I feel quite sure, be of vital importance and assistance to the housewife and the mother.

I shall begin with the chemistry of cooking and proceed gradually to scientific home building, keeping simple and hygienic living always in the foreground.

A SERIES OF PRACTICAL LESSONS, OF WHICH THIS IS THE FIRST

By Mrs. S. T. Rorer

Now that I have enumerated the conditions of the body, I will ask you to turn for a moment to the selection of the foods which will, with the least expenditure of energy and money, fulfill all these requirements. Nutrition may be said to take place under five conditions: digestion, absorption, assimilation, constructive metabolism and elimination or excretion.

The first begins in the mouth and continues throughout the alimentary canal, in the process by which food is converted into assimilable compounds. All foods ingested and digested are not always readily assimilated or used. They are frequently stored for future use. For instance, digested starch is stored in the liver under the name of glycogen, and also as fat, in the cells in the tissues; a sort of storing out of the food while the body is actively laboring for use. For example, the elements of water retained by the system—see, in fact, in the way—and must be cast out.

When Selecting Food to Cook

TO BE able to select and cook the foods which are necessary to sustain and build the body (general plan of the body) the elements it contain, and the necessary requirements for each, must first be understood. To explain more clearly and to give an idea of just what body-building means, let us compare the great living machine—the human body—with the steam engine or locomotive. In the case of the engine it is necessary to begin by selecting materials for the general structure. When these have been worked and fitted together, fuel must be supplied, as well as an abundance of air to enter the fuel-burner. As in the case of the body, fuel is required. As in the case of this combustion, motion, heat, steam, as well as ashes, cinders and gases are produced. In the human body the first material, second, the fuel, third, the air, must be selected. The necessary material from the body issues through several channels, the skin, the kidneys and the lacteals, and it is of the greatest importance that these channels should be kept in good condition.

Pure Air is an Necessary or Pure Food

PURE air is of vast importance in the building of the body. The oxygen uniting with the combustible part of food produces heat and energy. A perfect or complete nutrition, then, must consist of all the elements of our bodies are composed. The assimilable principles of the human body are resolved into about sixteen chemical elements, each of which must be constantly assimilated and absorbed. These are five gases: oxygen, hydrogen, nitrogen, carbon and fluorine. The four solids are carbon, sulphur, phosphorus and silicon. Seven minerals: calcium, sodium, potassium, magnesium, manganese and traces of iron, copper, zinc, barium, hydrogen and carbon are found in seventy-five per cent. of the adult body.

Water forms or should form, nearly all of the body. The proportion is greater in infants and young animals, and less in the aged. It is one of the essentials in carrying on all vital processes. It dissolves substances necessary for the nutrition of the body, as well as carries from its nutrient materials from one part to another. A considerable deficiency of water in the body, however, is looked upon as unfortunate; while a deficiency of water, if prolonged, causes a retention and accumulation of waste products in the blood and tissues, resulting in imperfect nutrition, which is one of the chief causes of constipation.

How to Build Up the Tissues

FASHION CHLORINE is found in the cells of the tissues and in the muscle fibers and nerve tissues. Green plants especially contain more potassium than sodium salt. This is also true of the potato, hence, green plants supply to the human body all the necessary elements. They are not food value, according to the common acceptance of the words, but you can readily understand that it is not necessary that food should contain what the body considers "nourishment." Beef tea, as made after the common method, does not contain a grain of nourishment to the human body. It becomes a necessary article of food in many cases of sickness. Mag-

HOW TO SELECT FOOD

throwing them out of order. Rich and highly seasoned dishes such as fish and the palate and induce the thoughts to take greater amounts than can be assimilated. Too much meat, too many heavy hearty foods, too few fruits and green vegetables (as found on the average American table), mean, in a class, eat too much meat, and are prone to kidney troubles. Women not only starch and sweets, bread and butter and preserves, puddings, pies and cakes, and are prone to constipation and constipation.

How to Regulate the Diet

THE total amount of food required each twenty-four hours varies of course, with the occupation and condition of the individual. The average adult in exercise requires as a day's ration about six pounds and thirteen ounces. Of this amount about five pounds are solid food and two pounds are liquids and taken as beverages. Of the remaining part, one-fourth will be nitrogenous matter, three-fourths carbonaceous, with about one hundred grains mineral matter.

Animal foods, being richer in albuminoids or nitrogenous constituents than vegetable foods, may be taken in smaller amounts. By eating a small amount of lean meat with bread or potato we get a food palatable, attractive and containing all the necessary requirements. It would require two pounds of ordinary bread alone to supply the nitrogen in two ounces of meat.

Arranging the Three Meals Each Day

THE three meals a day might be arranged in the following table, and would contain about the proper proportions:

Bread.....	12.00
Fruit.....	3.00
Meat.....	4.00
Vegetables.....	10.00
Butter.....	4.00
Eggs.....	4.00
Cherries.....	4.00
Apples.....	4.00
Wheat.....	12.00
Total.....	50.00

Another illustration will give an example of the diet I have tried to set forth from the beginning:

Wheat.....	12.00
White-sauce.....	12.00
Peas.....	12.00
Potatoes.....	12.00
Apples.....	12.00
Cherries.....	12.00
Wheat.....	12.00
Total.....	72.00

Muscular and Nervous Energy

THE relation between food, exercise and health of the individual, as well as the excretion, must be in proper proportion to the food ingested. This relation of the body to its kinds, muscular and nervous, and the latter, is done by the stored energy produced by the burning of oxidation of the food.

Alimentary principles may be divided into three classes: the albuminoids, nitrogenous or protein foods, all including the same, comprising lean meats, fish, mollusks (oysters and clams), crustacea (lobsters and crabs), cereals, leguminous plants, and pulses. The fats, oils, butter, lard, and the gluten of grains are also included in this class. All of these foods are digested principally in the stomach. The second division, nitrogenous or carbonaceous foods, refers to such foods as fat, the carbohydrates, sugars, and starches, and also molasses, honey, etc., in the stomach. Digestion of these begins in the mouth, and is finished in the intestine. White fats are non-nitrogenous, they are not carbonaceous. The third division is the inorganic, water and mineral matter.

Milk and Eggs are Perfect Foods

EGGS and milk are typical or perfect foods, containing within themselves all the necessary elements for the development of the young of their respective kind. While the egg is a perfect food for the development of the chick, and the milk for the young mammal, they are not perfect foods for the human body, and when used as such are objectionable, the nitrogenous or albuminous group. Cow's milk, typical food for the calf, if by no means a typical food for the infant of the human being. The calf gets its growth in four or five years. From infancy to manhood is three times that long. One can see at a glance that such a food would expend the delicate digestive apparatus of an infant.

When people disperse these foods of nature, they become objectionable. Cow's milk does not agree with the average infant. It never was intended to be used and has no right to be used. When it becomes necessary to substitute it for milk for human milk it must be modified. It is very difficult to become the chemical conditions necessary for human milk with nitrogenous and hydrates, proteins, and must therefore necessitate the use of a perfect food.

What Constitutes a Perfect Diet

A PERFECT diet, then, is a blending of common food materials adapted to the habits, sex, occupation and climate in which the individual lives.

Good Health for Girls

By Emma E. Walker, M.D.

Questions of general interest will be answered on this page every week, but inquiries must fit their answer and address. Correspondents should give name, address, and profession.

Strolling Clubs for Girls

NOW that the warm days are near at hand, "Strolling Clubs" will again be common parlance. Last year these parties were much enjoyed, particularly by the girls of Baltimore and Boston. And this year they will be equally popular.

A party of girls, in number from three to six, agreed upon some place, generally the home of a friend, as a meeting point for their stroll, and in number from three to six, agreed upon some place, generally the home of a friend, as a meeting point for their stroll, and in number from three to six, agreed upon some place, generally the home of a friend, as a meeting point for their stroll.

Five Questions I Have Been Asked

To Sweaten the Breath.
I use an unpleasant breath. Please tell me how I may prevent it.
A good powder will do much to sweeten the breath. Glycerine, which can be bought in little sticks, imparts a delicate fragrance to the breath.

To Increase Tensions.
Can you give me a simple home exercise for decreasing tensions?
One of the best and most beneficial exercises for growing children is the following: Lie on your back on the floor, with the arms stretched above the head so that your hands can grasp some firm object. The feet, and cross the legs.

Some Little Helps and Hints

WHEN bathing, the chest should be protected by a blanket. The olive oil that we buy is often made from cutworms.

It must be remembered that persons of different temperaments require different methods and degrees of physical exercise. Nervous girls should take light exercise, while those of phlegmatic temperament require vigorous exercise.

Hangings frequently cause rheumatism and water to be absorbed by bathing. This may be avoided by taking a glass of milk—preferably hot, but not boiling, or a cup of cream, or even a light sandwich before going to bed.

No girl can get fat by artificial aid. Fat is essential to the girl of health, although there are healthy girls whose lips are always pale. Having the fat under the skin thick and somewhat colorless.

It has been observed that those who marry by clinging to an excess in games to exhibit of the former which is assumed to be the result of a healthy ordinary condition of bicycling.

A great deal of the muscle sugar used in the ordinary conditions of bicycling.

図8

図9

また、1902年4月号には「少女たちの健康」という記事が登場する(図9)。記事では気候が暖かくなり、散策にちょうどよい季節であると勧めており、「適当な条件のもとでの散歩は、最も有用ですばらしい運動のひとつである」¹⁵⁾としている。ここで紹介する散策とは、4人から10人の少女たちが、昼過ぎに数マイル歩くことを目的としてあらかじめ場所を決める(大抵は友達の家)。ホステス役が用意、あるいは参加者たちが持ち込んだ軽い昼食をとった後、夕食の時間までに全員で街まで歩いていくというもの、基本的には若い少女たちが遊びの一種で行う軽いイベントのようなものである。健康のための運動を主眼として、激しく行うものではなく、あくまで楽しみながら運動することを目的としているところが、若い少女向けであると見えるだろう。この「少女たちの健康」という記事は好評を博したのか、シリーズ化されて何度となく掲載されることとなる。1902年6月号にはカヌーが紹介され、正しいこぎ方が写真つ

きで掲載されるなど適度な運動を推奨していると考えられる。

3. 家計に対する考え

さらに記事を分析していくと、家庭における消費活動、いわゆる家計に関する考えも散見される。代表的なものが、「〇〇人の少女たちがどのようにお小遣いを捻出したか」という記事である。この記事もその誌面の大きさは異なれど、人数を変えて度々掲載されている人気記事のひとつである。例えば、1904年1月号には「32人の少女たちがどのようにお小遣いを捻出したか」と題されており、「自分が持っているドレスや帽子を欲しいと思わない少女がいるだろうか」¹⁶⁾という書き出しで、少女たちの数々の小遣い捻出法を紹介している。翌月、2月号には「20人の母親がどのようにお小遣いを捻出したか」、「16人の少女たちがどのようにお小遣いを捻出したか」¹⁷⁾とパターンを変えた2つの記事が掲載され、母親の家計への関心がかがえる。

家計に関する記事はこれだけにとどまらない。1904年9月号には「一年間600ドル以下でどのように家族で生活するか」という記事が掲載された(図10)。たとえば、7人で年間600ドルで生活する方法という項目に登場した家族の家族構成は子どもたちが4人、大人が3人であり、ここ数年ほど年収は600ドル、あるいはそれ以下であったという。この記事の最後には家計費のやりくりについて、一覧表として掲載されている。その記述によるとこの家族は月収が50ドルであり、毎月の家賃が12ドル、食料雑貨が12ドル、洗濯が5ドル、パンが2.5ドル、牛肉が2.5ドル、野菜が2ドルと続き、衣服やガソリン等の燃料、牛乳などはバランスをとって14ドルと記され、支出合計金額が50ドルとなっている。また、この一覧にあわせて、朝食にはホミニー(ひ

How Some Families Live on \$600 a Year or Less

From Their Own Stories: Edited by Maria Parlon

Four of Us on \$450 a Year

Four of us, of Baltimore, write:

Mrs. C. was married in 1898, and have two children, both boys—one three years old, the other six months. At the time of my marriage I was making \$6 a week, which has since been raised to \$7.

My wife washes towels for the same company which I am employed, for which she gets \$1 a month. The total sum which we take in is \$7 a month to about \$8. This includes the Christmas presents which I get from the tenants of the building in which I am employed running the elevator. Out of this we put \$1 or \$2 a week in bank, and at times a little more.

We pay \$1 a month for the house in which we live, and rent out one room to my mother-in-law for \$2 a month.

I take a week's vacation during the year, but this costs me nothing but my railway fare, as I stay with friends. During the summer we go times take a trip on the water at night, which costs us twenty-five cents apiece.

These are the main things which follow. The first is to give my wife my money when I reach home on Saturday. This she keeps for spending in it a foolish manner. The second is to buy enough coal and wood at one time to last all winter. In summer, when fuel is so cheap, we buy two tons of fuel and a cord of wood, which lasts through the winter. In summer we buy two tons of fuel and a cord of wood, which lasts through the winter. In summer we buy two tons of fuel and a cord of wood, which lasts through the winter.

My breakfasts and luncheons are always the same:

Breakfast: One egg each, cocoa and bread.

Luncheon: Bread, beef, cheese or ham and coffee.

The dinners are:

Monday—Rice or noodle soup with eight or ten cents' worth of soup-meat, bread, coffee, and sweet butter.

Tuesday—Bread and at ten cents, potatoes, and coffee.

Wednesday—Rice or noodle soup with ten cents' worth of soup-meat, bread and coffee.

Thursday—Wool cutlets at twelve cents, potatoes, peas, pickles, bread and coffee.

Friday—Oyster soup in season, fifteen cents' worth of oysters, five cents for crackers, bread and coffee.

Saturday—Piled braises or steak, potatoes, bread and coffee.

Sunday—Vegetable soup, one can of mince-toss and corn at eight cents, one loaf of cabbage, one carrot, one bunch of herbs at six cents, a little rice, and some potatoes, and soup-meat at ten cents, bread, coffee, and sometimes celery. Our roast beef at twenty-five cents, potatoes, lima beans, bread, coffee.

The various items are about as follows:

Rent..... \$10.00
Coal..... 12.00
Wood..... 12.00
Gas..... 1.00
Electric..... 1.00
Lighting..... 1.00
Water..... 1.00
Telephone..... 1.00
Gas..... 1.00
Lighting..... 1.00
Water..... 1.00
Telephone..... 1.00

Leaving \$22 for incidentals and the savings bank.

A Family of Seven on \$600

THIS is an account of how a family of four children and three adults people lived in Charleston, South Carolina, on \$600 a year:

Our family consists of three grown persons, and four children between the ages of fourteen and three. Our incomes, for many years, have never exceeded \$600; often it has been less. We live in a suburban city, where living is cheap—the winters short and mild. If, in summer, it is necessary for some weeks or a few minutes' walk will bring us to the ocean side, where persons spend an evening from home.

Our grocery supply includes rice, peas, beans, butter, sugar, coffee, tea, eggs, bacon, oatmeal, etc.; no canned goods, as I have a large stock of these. Four pounds of baker's bread, white, rye or graham, daily, supplies all the home-made breads. The vegetable list contains half a peck of white

and a peck of sweet potatoes every week that they are in market. I never buy any other vegetables in their season, and twenty cents, carefully examined, goes a long way when grown upon are ten cents a peck and extra and tomato. For breakfast we have hominy or oatmeal, biscuits, waffles, etc., coffee, and generally milk for the children.

For dinner, besides rice, potatoes, and other vegetables, we have, two or three times a week, a fifteen-cent bean sprout, and a half cent a pound. We all, even to the baby, prefer quality to quantity. Other days we often have a ten-cent piece of brisket, cooked in some kind of soup. We all have plenty, and the food is good, if plain.

Supper is very simple—half bread and butter, as a rule, with coffee or tea for the grown-ups and milk for the children. Sometimes we have stewed prunes or baked apples, with a small roast, sausage, pie and fruit after dinner. We do not have cake or pudding more than twice a year, unless you except tea cakes and sweet potato pies.

This \$14 balance being very small for all it has to cover, but it responds nobly, and very often there is something left to pay bills for the larger outside necessities at certain seasons. Our washing is given out.

For all my millinery, dress, and accessories to much a good pile of soap at \$4 a pound, with one ton of hard coal during the winter, which we generally buy.

Three of our children go to school. They had their clothes and shoes made by the family. These, with underclothing for the four of us, cost about \$25 a year.

To summarize as accurately as possible:

Monthly income..... \$50.00
House rent..... 12.00
Coal..... 12.00
Gas..... 1.00
Electric..... 1.00
Water..... 1.00
Telephone..... 1.00
Lighting..... 1.00
Gas..... 1.00
Lighting..... 1.00
Water..... 1.00
Telephone..... 1.00

A Girl Alone on \$10 a Week

MRS. C. tells how she lives on \$10 a week in New York City:

All organizations for the protection and help of young women keep lists of boarding-places. I found my first boarding-place through the Harlem Young Women's Christian Association. My salary was \$10 a week. For my luncheon and coffee I allowed \$2; \$1 was given for church and charity. This left me \$2.50, which was put in the bank \$1 to remain as a permanent saving, and \$1.50 to go toward a fund for clothing.

For a luncheon dress I got about eight yards of heavy, double-faced material in dark blue or coffee gray; with it I made only two black velvet dresses. I am particular to wear clean collars and neck ribbons. A black hat and belt I find most comfortable. For Sunday and entertainments I have a black brilliantine dress, and a cheap, neat, fur-lined jacket with the skirts. For summer I have thin suits and a white lawn dress. These I make myself. I get good shoes and keep these well polished. The business woman's costume must be neat and trim, but it need not be expensive. I never buy any high-collared one and paid my vacation expense.

As there must be good habits if these women are to be good workers I am careful to do the things that are conducive to health. For example, home where I can have an airy room. I get clean, nourishing food. I have a good, avoiding many and other sweets.

To summarize:

My income..... \$10.00
House rent..... 12.00
Luncheon and coffee..... 2.00
Church and charity..... 1.00
Gas..... 1.00
Lighting..... 1.00
Water..... 1.00
Telephone..... 1.00

In the last item of the household items table will be given of families who live on \$600 a year or less.

図10

き割りのトウモロコシ)あるいはオートミール、ビスケット、ワッフル、コーヒー(子どもには牛乳)、夕食には米、ジャガイモその他の野菜、週に2、3回は腰肉のステーキ、などと食材名をあげて具体的に示している¹⁸⁾。

V 結論

アメリカは、19世紀末から20世紀初頭にかけて大きく発展を遂げた。産業革命を経た機械化、大量生産化によって物は豊かになり、郵便制度の発達も市場の拡大、経済の発展を促した。アメリカにおいて激動の時代であったといえるだろう。社会の変化は人々の生活にも変化をもたらしたといえる。富裕層ほどではないとはいえ、肉体労働者に比べ金銭的余裕のある中流階級が誕生した。商店や会社等に雇用される、それまでの労働者とは異なる形態で働く労働者であり、知的労働者とも言える存在であった。

また、郵便制度の発達とともに雑誌も大きく発展していった。19世紀末から20世紀初頭にかけて多くの雑誌が創刊され、現在も発行されている雑誌も多数存在する。雑誌に掲載された記事は、その当時の世相を切り取ったものであり、対象読者がどのようなことに関心を持っているのかを知る有用な資料となるといえる。

本研究では、1900年から1910年までに発行された「レディース・ホーム・ジャーナル」を資料として掲載記事の調査を行った。本誌の対象読者は中流階級の女性であったことから、必然的に女性向け、子ども向けあるいはそれらに関する記事が多く、成人男性向けの記事はみられなかった。特に、子ども、少女に関する記事が目立ち、子育てへの関心が強く感じられる。これはいわゆる良妻賢母型の、家庭の主婦という当時の女性に求められた姿を反映しているといえるだろう。また、記事の中に学校、寄宿学校といった単語も頻繁にみられ、学校教育が浸透していたことがうかがえる。学校用の衣服に関する記述も定期的にみられることから、読者である母親が時には娘と一緒にしながら誌面の推奨する服装を参考にしていたと推測することができる。その一方で、家族や教師に勧められるままに、明確な意思がなくカレッジへと進学する少女がいることに対して警鐘を鳴らす文面もみられることは興味深い。この記述は学校教育の普及を証明すると同時に、新たな問題が生まれていたことを意味しているだろう。

また、家庭生活において重要な役割を果たす食事についても多くの記事が掲載されていることが確認された。この項目に関しては、写真記事が多く、季節ごとやクリスマスなどの行事にあわせたメニューが紹介されており、献立のモデルプランとして好評であったことが推測される。同様に散策の推奨など健康に関する記事が連載されたことから、健康的な家庭生活を目指す姿が浮かび上がってくる。

主要な読者層が家庭の主婦であるということが最もよく表れているのが家計に関する記述であるといえる。こちらは今回調査した10年間のうち特に後半期に掲載されていた。やはり同様に小遣いの捻出を目標とした少女向けの記事と家計のやりくりを目標とした母親向けの記事の2パターンで展開されており、特徴的であった。

以上のことから、当時の中流階級のアメリカ家庭では女性たちに「家庭の主婦」としての側面が強く求められていたことが推測される。また、母親たちは学校教育に高い関心を持っており、学内での様子や食事など「学校」という場に関する情報を求めていたといえる。同時に、寄宿学校に娘を入学させるにあたり服装など周囲に合わせた知識などが求められたとも考えられるだろう。また、娘たちに関しても、欲しいものを購入するための費用の捻出など、年頃の少女の姿を垣間見ることができる。こうした、生活に関する様々なことに対する欲求、関心は必要最低限の生活を送ることが精一杯であった労働者階級には存在しえなかったことである。社会の変化において物があふれ、身の回りのことに費用をかけることができる中産階級家庭であったからこそといえるだろう。と同時に、そこに現代の我々の生活との共通点を垣間見ることができる。ヒエラルキーというものがより色濃く存在していた20世紀初頭の中流階級家庭を現代とを単純に比較することはできない。しかし、家計をやりくりしながら日々の献立を考え、子どもたちの衣服や学校に関心をもつ母親、自由にできるお金の捻出方法を思案し、友人と食事を楽しむ少女など、誌面を彩る人々の姿は現代の我々の原点のひとつと考えることができる。

謝辞

本稿で資料としました「レディース・ホーム・ジャーナル」は日本女子大学図書館所蔵のマイクロフィルムを使用致しました。謹んで御礼を申し上げます。

【注】

- 1) 有賀貞著：『ヒストリカル・ガイド アメリカ』、山川出版社、東京、p105（2004）
- 2) 桑名淳二著：『アメリカ雑誌をリードした人びと』、風濤社、東京、p175（2003）
- 3) 同書、p12
- 4) 同書、p13
- 5) 同書、p13
- 6) The Ladies Home Journal, 1900年1月号
- 7) The Ladies Home Journal, 1900年10月号
- 8) The Ladies Home Journal, 1902年8月号
- 9) The Ladies Home Journal, 1902年8月号
- 10) The Ladies Home Journal, 1907年8月号0
- 11) The Ladies Home Journal, 1910年9月号
- 12) The Ladies Home Journal, 1900年1月号
- 13) The Ladies Home Journal, 1900年2月号
- 14) The Ladies Home Journal, 1901年11月号
- 15) The Ladies Home Journal, 1902年4月号
- 16) The Ladies Home Journal, 1904年1月号
- 17) The Ladies Home Journal, 1904年2月号
- 18) The Ladies Home Journal, 1904年9月号